

セキュリティテストを目的としたROHITLの提案

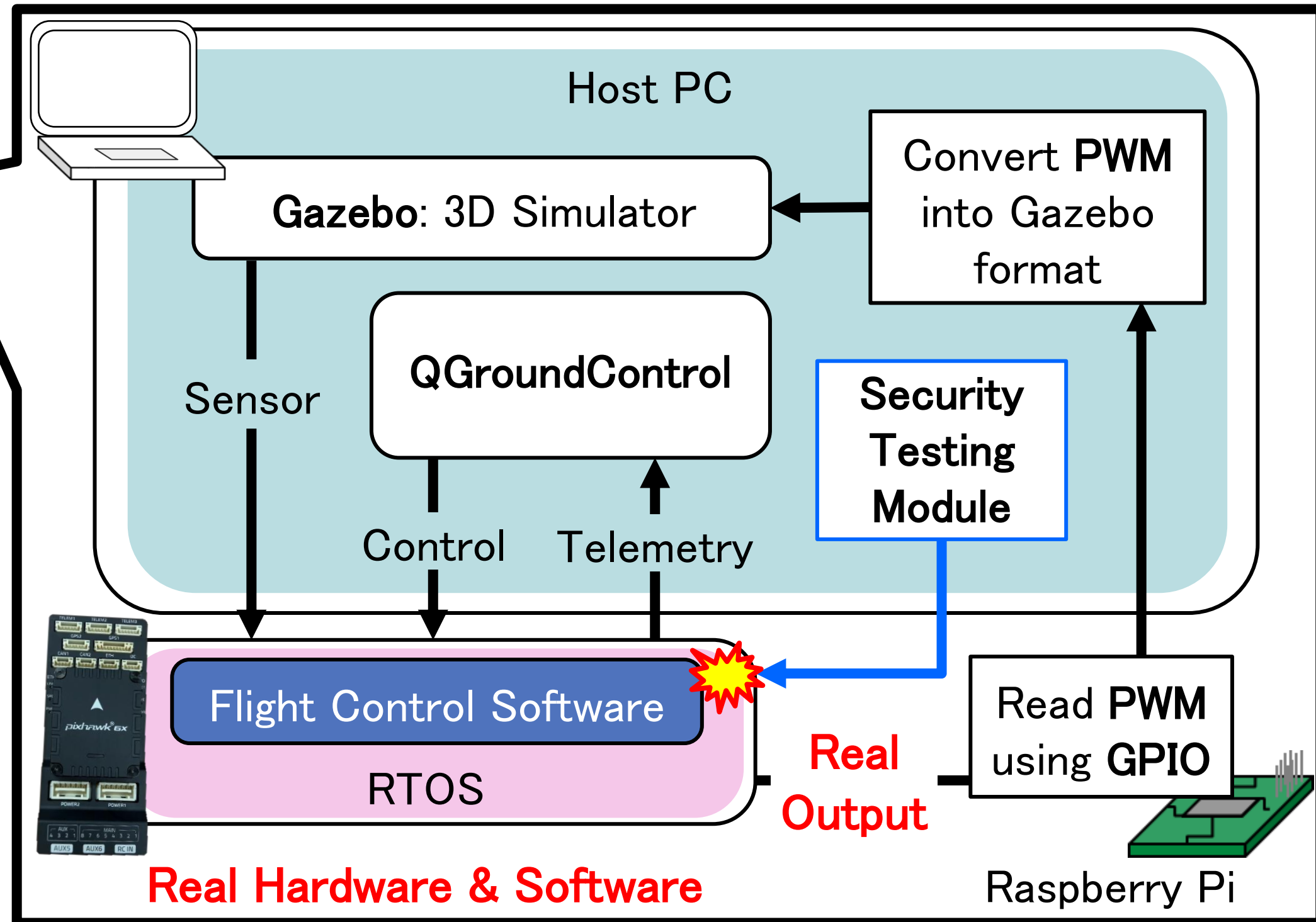
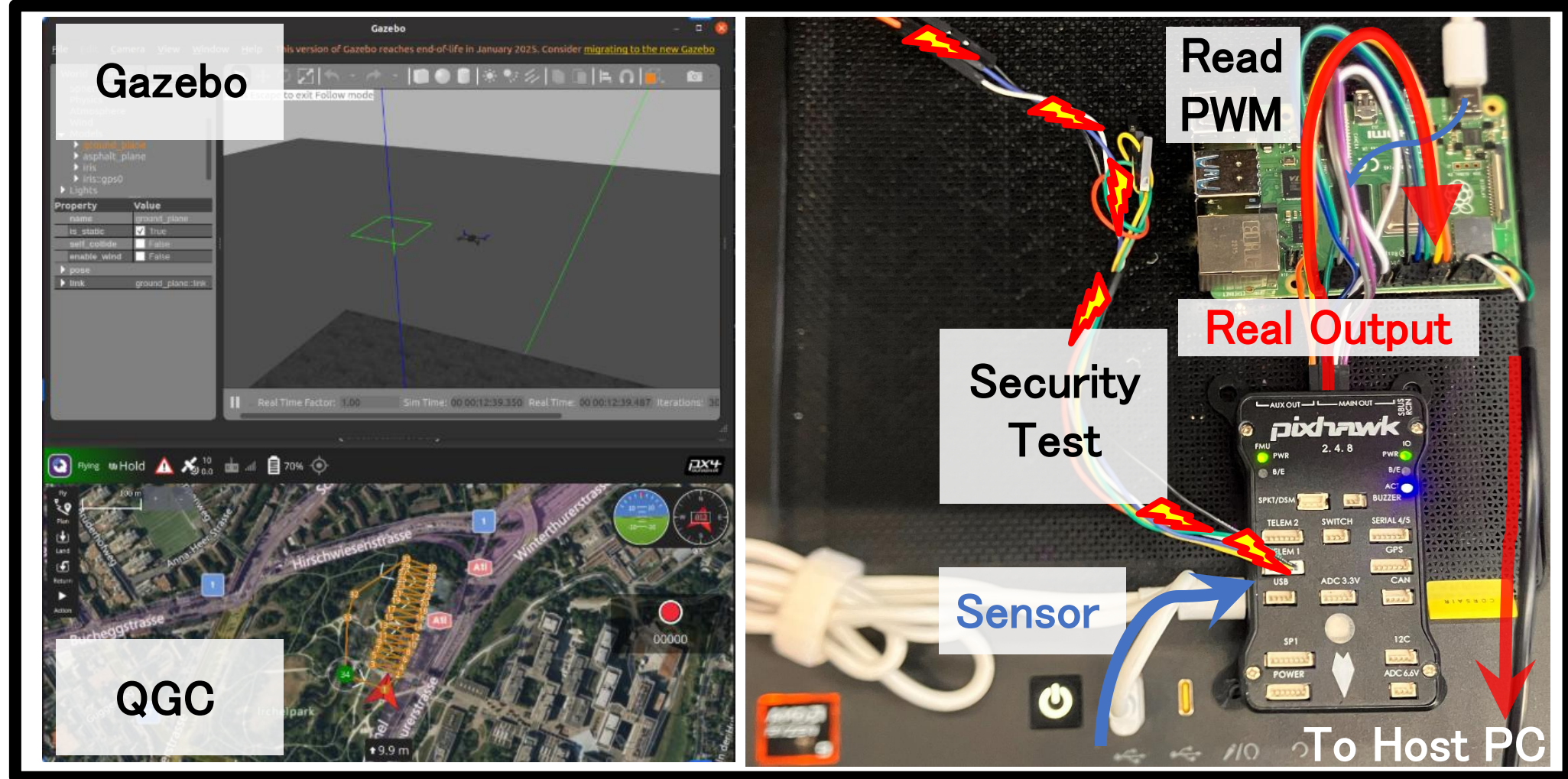
惣島雅樹, 須崎有康

情報セキュリティ大学院大学

① 背景(シミュレータにおけるサイバー攻撃の再現性問題)

オープンソースコミュニティが提供する既存のシミュレータでサイバー攻撃を正確に再現することはできない。近年広く活用されているSITL(Software-in-the-Loop)も、サイバー攻撃時の実機フライトコントローラやRTOS上での動作が確認できないため、セキュリティテストの目的には十分に適した環境とは言えない。

② 提案手法 ROHITL: Real-Output Hardware-in-the-Loop



■ オープンソースの主要ソフトウェアPX4およびArduPilotに対応

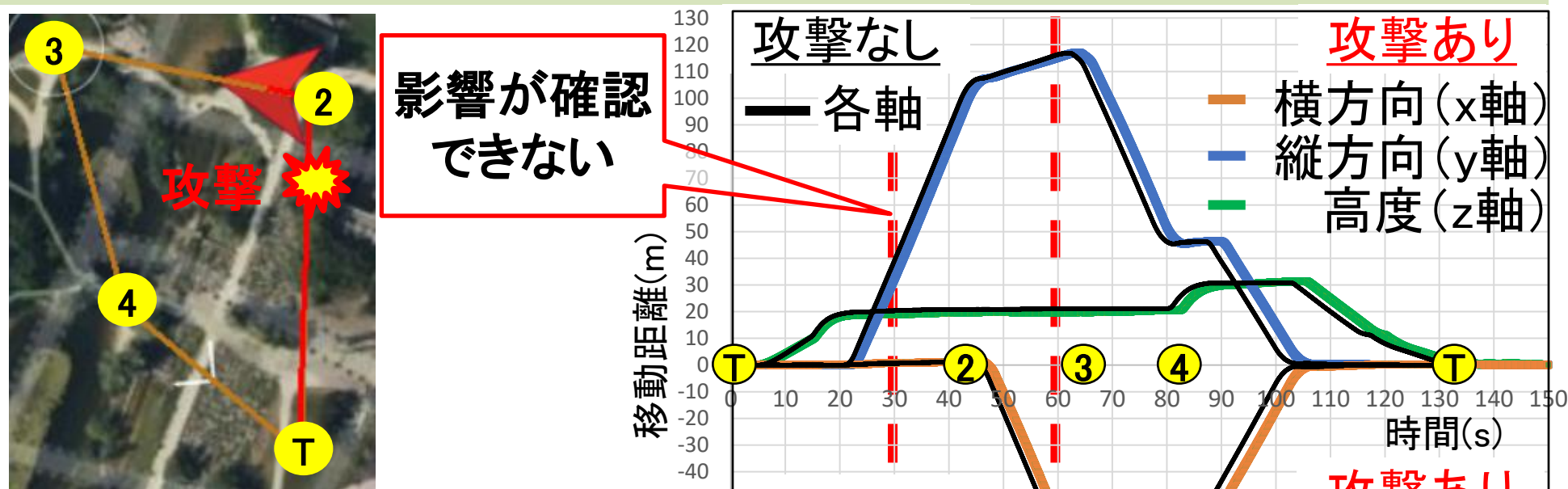
Open Source Software	Existing Simulation		
	SITL	HITL	ROHITL (提案手法)
PX4	○	○*	○
ArduPilot	○	×	○

* community supported and maintained

- 実機フライトコントローラやRTOS上の動作が確認可能
- モータ指令値の物理的な出力まで実機と同じ動作

③ セキュリティテストの事例 (PX4、ArduPilotの既存シミュレーション環境と比較)

■ PX4のMAVLinkメッセージの大量送信



影響が確認できない

攻撃あり
横方向(x軸)
縦方向(y軸)
高度(z軸)

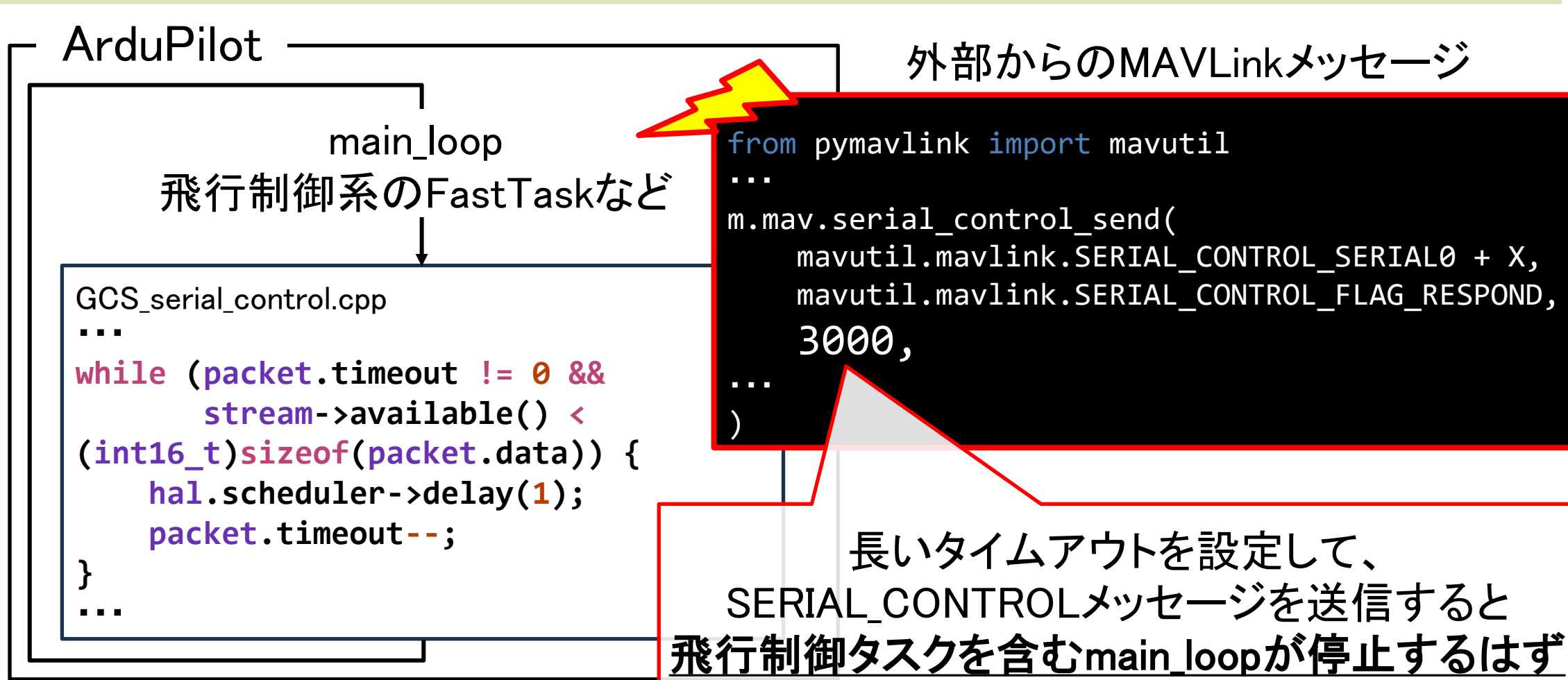
事前にアップロードしたWaypointに従って自律飛行中にメッセージを大量送信

COMMAND	CPU(ms)	CPU(%)	USED/STACK	PRIOR(BASE)
Idle Task	1281864	6.146	288/ 768	0 (0)
hpwork	0	0.000	284/ 1224	249 (249)
lpwork	0	0.000	284/ 1576	50 (50)
nsh_main	0	0.000	2324/ 3144	100 (100)
wq:manager	0	0.000	548/ 1232	255 (255)
wq:lp_default	9	0.054	1444/ 1896	205 (205)
wq:rate_ctrl	1584	10.965	2492/ 3120	255 (255)
wq:hp_default	2	0.017	964/ 2776	237 (237)
dataman	0	0.001	908/ 1376	90 (90)
wq:I2C2	3	0.026	700/ 2312	245 (245)
log_writer_file	43	0.111	692/ 1144	60 (60)
commander	68	0.197	1860/ 3184	140 (140)
wq:nav_and_controllers	936	6.315	1452/ 2216	242 (242)
wq:INS0	1744	11.757	3644/ 5976	241 (241)
mavlink_ifo	151	0.409	1980/ 2704	100 (100)
mavlink_rcv_ifo	4738	42.831	1524/ 4776	175 (175)
navigator	25	0.079	1820/ 2104	105 (105)
logger	527	3.584	3452/ 4000	130 (130)
mavlink_serial	0	0.000	0/ 0	0 (0)

navigatorの優先度の方が低い
Waypointを更新できないはず

Simulation	評価
SITL	過少評価
HITL	過大評価
ROHITL	適正に評価可能

■ ArduPilotのSERIAL_CONTROLメッセージの不具合



長いタイムアウトを設定して、SERIAL_CONTROLメッセージを送信すると飛行制御タスクを含むmain_loopが停止するはず

ROHITLでの検証結果

Simulation	評価
SITL	評価不可
ROHITL	適正に評価可能

main_loopが停止して、Watchdog TimerによりTask44(MAVLink受信処理)実行中にFT3(HardFault)でリセット

④ まとめ

- ドローンのセキュリティテストを目的として、サイバー攻撃を正確に再現可能なシミュレーション環境ROHITLを提案
- PX4とArduPilotのそれぞれで、既存のSITL/HITLでは正確に再現できない攻撃をROHITL上で再現可能であることを確認した

